

2021-05-12

専門委員 村上文洋

第 16 回投資等 WG コメントメモ

本日、所用により WG に出席できませんので、コメントメモを提出します。

1. 自動車がコンピュータ化、高度化する中での今後の安全維持の在り方

近年、自動車は自動制御等が進み、コンピュータの塊になってきています。今後、自動運転等が普及すると、さらに高度化することが予想され、既存の点検では対応できない部分が拡大することが懸念されます。

一方、センサー等から様々なデータを取得したり、通信機能を備えたりすることで、日常的に車の状態を把握して、故障等の予兆を発見し、対応することも可能になってきています。このように、従来の点検等の仕組みで対応できる部分と、新たな対応が求められる部分が生じてきています。

国土交通省としては、自動車の技術進化に対応した、新たな安全維持の仕組みづくりの検討が必要です。その際、利用者の負担を増やさない工夫や、自動車整備業界等の高齢化・人材不足等の課題解決にも留意する必要があります。

2. データ有効活用の仕組みづくりについて

これからの自動車は、コンピュータの塊であると同時に、データの塊でもあります。自動車から取得される様々なデータは、自動車の点検・整備だけでなく、事故や渋滞の防止、運転者の健康・労務管理、道路・交通安全施設の整備、自動車保険、タウンマネジメントなど、新たなサービスやビジネスを創出するために活用することが期待されます。

一方、データを有効活用するためには、協調領域と競争領域の区分、セキュリティや個人情報保護への対応、データフォーマット等の標準化など、データを安全かつ円滑に利用できる環境整備が必要です。

国土交通省としては、自動車の点検・整備に限定せず、幅広くデータを有効活用するための環境整備を、関係府省庁や企業等と一緒に検討する必要があります。この際、海外の取り組み状況等も調査して、日本の国際競争力向上につながるようにすることが大切です。

以上